

- 原子力の専門家（研究者、技術者）の推移・見通し、原子力を専攻とする高等教育機関の定員等
- 操業中・及び廃止措置中の施設の推移と必要となる人員数

(3) 地球温暖化対策の困難化

【デメリット】

- 炭素排出削減に関する京都議定書等の国際約束の履行が困難
- 今後とも積極的な削減方針を打ち出せず、国際的な信用、期待を喪失する可能性
- SO_x、NO_x等の排出も再増加の可能性

【論点・データ】

- 原子力減少時のCO₂発生量の見通し
- 炭素回収・貯留技術のポテンシャルと経済性への影響（特に長期の大量貯留方式の安全性・信頼性の確認と経済性等）
- 原子力減少時のSO_x、NO_x発生量の見通し

(4) 我が国の経済への悪影響

【デメリット】

- 発電コスト高騰による実質的な家計負担増、企業の国際競争力低下
- 化石燃料資源の輸入増加による貿易収支の悪化、海外移転等による産業空洞化及び経済成長全般への悪影響

【論点・データ】

- 発電コスト見通し
- 家計負担増と各産業への影響（電力費割合・製造原価への影響等）
- 化石燃料資源輸入量、輸入増加（費用増加）見通し
- 企業の海外移転の意思（アンケート結果等）
- GDP等への影響

以上

11月17日版ドラフト

高速炉サイクル技術開発の意義

平成23年11月30日

日本原子力研究開発機構

次世代原子力システム研究開発部門

目次

I. 前回の政策大綱策定時からの環境の変化	2
II. 高速炉サイクル技術開発の目的(意義)と効果	6
III. 技術開発の現状	9
IV. 今後の取り組み	12
添付資料	
A. 高速炉の安全性	14